

一般の部 入賞

「ぼくはお父さんみたいにならない。」

私が小学生になったばかりの頃、母に連れられて父の職場見学をしたときの発言だ。父は工場勤務で旋盤やボール盤など、機械を操作して金属を加工する仕事をしていた。当時の私は、その独特な油の臭いやベタベタする床、耳をつんざく衝突音にすっかり驚いてしまって、父の職場に恐怖すら感じていた。子供の気まぐれな発言だったが、母は少し残念がり、又聞きした父は大いに悲しんだと、後に進学を控えた私は聞くことになる。

そんな私も大学を卒業し、輸送機器部品の製造会社に就職して10年になる。すっかり慣れた油の臭いを嗅ぐたびに、私のちょっとした発言が、仕事に真面目だった父を悲しませたことを思い出す。今なら分かる、父の仕事の過酷さと、その卓越した技能の尊さを。

「私は親父みたいになんてなれていない。」

気づくと父の背中を追う自分がいる。尊敬と感謝を胸に秘め、今日も仕事に向き合う。

愛知県犬山市

たぐち ゆうじ
田口 裕二さん